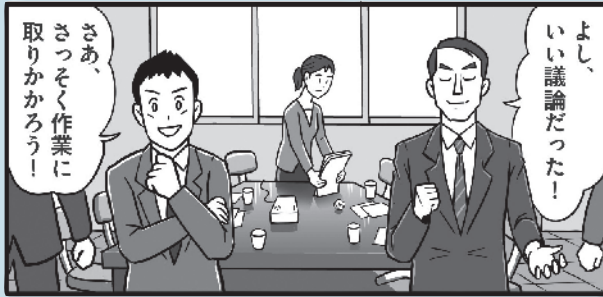


その「役割」、誰が決めたもの?!

～気づくことから始める、アンコンシャス・バイアス～ **職場編**

「無意識の思い込み・偏見」のことを「アンコンシャス・バイアス」といい、これまでの経験や見聞きしてきたことなどから生み出され、気づかずにいると、知らないうちに相手を傷つけたり、自分自身の可能性を狭めてしまうことがあります。

次の場面のように、みなさんの職場で、無意識に性別で役割を決めてしまっていることはありませんか？



女性は補助役?!

仕事の偏りや役割の固定化は、個人の能力発揮を妨げ、チームの多様な視点を失わせる原因になります。一人ひとりの能力を生かし、誰もが自分らしく、いきいきと働ける職場を作っていきましょう。

男なら仕事優先?!

かつては「男は仕事に専念するもの」という意識が主流でしたが、共働きが多くなった現在では、家事・育児・介護は分担する家庭が増えています。職場全体でワーク・ライフ・バランスに取り組み、支え合える職場を作っていきましょう。

女性は家庭や育児を優先?!
男性は家庭のことは二の次?!

良かれと思ったその判断、
実は思い込みかもしれません!

あなたの中にある アンコンシャス・バイアスをチェックしてみましょう

誰もが持っている「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に気づくことは、働きやすさと働きがい
が両立した職場環境を実現するための第一歩です。「普通はこうだね」という枠組みを外し、多様な個性
や価値観を認め合う。そんな一歩が、組織の風通しを良くし、互いを尊重し合える環境づくりにつながります。

～まずは自分の心のレンズを、確認することから始めてみましょう～
次の中で、あなたが「そうだ」と思うものにチェックしてみましょう。

チェック✓

	「力仕事は男性、お茶出し・雑用は女性」のように、「これは男性の仕事」「これは女性がやるべき」と役割を固定して考えることがある
	外回りは男性の方が向いていると思う
	重要な意思決定の場に、特定の性別の人しかいないことに違和感がない
	共働き家庭でも、こどもの急な発病で休むのは「母親（女性）」だと思う
	小さい子どもを持つ女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるのが良いと思う
	育児中の女性社員に責任のある仕事は難しいと思う
	「女性は感情的で、男性は論理的だ」といったステレオタイプで、相手の性格や能力を判断することがある
	育休を取る男性は、キャリア志向ではないと思う
	男性が主張すると「リーダーシップがある」と感じるのに、女性が同じように主張すると「気が強い」と感じてしまう
	「男のくせに」「女らしくない」といった言葉が、つい口に出たり、頭に浮かんだりすることがある

今日からできる「3つの自分アップデート」

- ① 「本当にそうかな？」と疑ってみる
➡ 判断する前に、一度立ち止まって考えてみる。
- ② 「事実」と「意見」を分ける
➡ 相手の属性（性別・年齢）ではなく、その人の言動を見る。
- ③ 対話を大切にする
➡ 配慮のつもりで決めつけるのではなく、対話を通じて相手の思いを聴く。

アンコンシャス・
バイアスを学ぼう
(厚生労働省)

